

平成21年度 指導資料 「児童生徒の心に響く道徳の時間の指導」
～児童生徒の心に響く資料の選択と指導方法の工夫～
指導資料の活用にあたって

道徳教育においては、平成21年度から新学習指導要領による指導が実施されており、指導資料「児童生徒の心に響く道徳の時間の指導」の作成にあたっては、次のことを基本的な事項としました。

1 主題名について

主題名は指導する内容項目を端的に表現したもの、あるいは資料の内容を分かりやすく表したものが望ましいと考えます。特に、児童生徒の実態に十分配慮し、興味深く、ねらいの達成の一助となるものが適切です。指導資料の主題名は、新学習指導要領「第3章 道徳」に示された内容項目に則って作成しました。

2 資料名とその出典について

道徳の時間の指導において、資料の選定は重要な意味をもちます。どんな資料を選定するかは各校の年間指導計画に基づいて行われますが、主題のねらいを達成するために児童生徒の感性に訴え、豊かな感動を与える資料等、児童生徒の心に響く資料の選定に努めることが大切です。本年度の指導資料は、小・中学校ともにできるだけ感動的な資料を取り上げ、より効果的な指導方法を考えました。

3 主題構成表について

主題設定は、「何を、何のために、どのように進めるのか」という道徳の時間の指導内容を明らかにし、本時のねらいを明確にするものです。

これが不十分であると展開も曖昧になり、児童生徒が人としての生き方を深く追求していく時間にはなり得ません。指導者の基本的な構えや手順として、どの指導事例も、次の5点を大切にしています。

① ねらいとする道徳的価値の分析

- ・内容項目には、複数の道徳的価値が含まれていますので、どの内容で行うのか焦点化を図ります。
- ・人として生きる上で、その道徳的価値にどんな意味や必然性があるのかを授業者自らの言葉で考え、道徳的価値の本質をつかみます。道徳的価値についての授業者の捉えの深さが、授業での児童生徒の追求の深さに大きくかかわってきます。
- ・児童生徒の発達の段階から特に重視する内容は何かを具体化します。

② 児童生徒の実態・意識の要因の把握

- ・具体的な行動から、まずできていることに着目し、それを児童生徒の道徳性のよさとしてとらえます。
- ・ねらいとする道徳的価値から、児童生徒の行動の奥にある意識（感じ方や考え方）を、自分自身についてや他者とのかかわり、対象とのかかわりなどの視点から多面

的に考えます。

- ・さらに、行動の奥にある意識の要因を明らかにします。また、この分析が、本時の展開の基本発問につながっていきます。

③ 資料の分析

- ・授業を構想するに当たり、何度も繰り返して次に示す事柄に留意しながら資料を読み込むようにします。
- ・まずは、ねらいとする道徳的価値や展開にとらわれて狭い視野で読むのではなく、一人の人間として主人公の生き方の真のすばらしさは何かを考えながら読むようにします。
- ・人としての弱さやもろさと、強さやすばらしさのそれぞれを兼ね備えた主人公の生き方を読み取ります。
- ・資料の登場人物等の言動は、主人公の言動と対称的に描かれていることが多くありますが、こうした言動は主人公の心の分身であるにとらえて読むこともできます。資料を多面的に読み込むことが大切です。
- ・ねらいとする道徳的価値から児童生徒の実態をもとに資料の扱いどころを吟味します。

④ 本時のねらい

- ・①、②、③を踏まえ、焦点化した道徳的価値をもとに、学年の発達段階を考慮し、児童生徒にどのような感じ方や考え方を育てていくかを明確にします。
- ・ねらいは、道徳的価値に照らして簡潔に表現します。

⑤ 展開の構想・基本発問

- ・4に示す基本的な学習指導過程を参考にして、導入・展開・終末の各過程において目指す児童生徒の具体的な姿を描きます。
- ・児童生徒の心の動きに即し、ねらいに迫るための基本発問と中心発問を考えます。

4 学習指導過程について

学習指導過程は、児童生徒にねらいとする道徳的価値についての自覚を深めるための手順を示すものです。実際の指導に当たっては、児童生徒の実態や扱う資料の特性等によって、多様な学習指導過程が考えられます。ここでは、その中でも基本的な展開例として一つの例を示します。

- ① 導入→ 主題に対する児童生徒の興味・関心を高め、学習への意欲を喚起します。
 - ・ねらいとする道徳的価値について、生活経験を想起させたり、事前のアンケートの結果を示したりして方向付けをします。
 - ・使用する資料について、写真やVTR、効果音などを使った効果的な導入を工夫します。
- ② 展開→ 中心となる資料を通して、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めます。
 - ・ねらいとする道徳的価値について、自己の生き方と結び付けながら追求し、より確かな把握ができることを目指します。
 - ・主人公の揺れ動く心やよりよい生き方の実現に向かう心の在り方をじっくりと追求します。

- ・この過程では、役割演技や話し合い活動による追求が中心になります。より深まりのある授業にするために、役割演技の位置付け方や取り上げ方、子どもたち同士による自由や話し合い活動の位置付け、板書の生かし方などの指導方法を工夫することが大切です。

③ 終末→ 1時間の授業のまとめをする段階であり、一人一人が見つめた生き方を今後の生き方へとつなぎます。

- ・ねらいとする道徳的価値について教師がまとめたり整理したりすることで1時間を振り返ります。
- ・児童生徒がこれからの自己の生き方について、憧れや希望を抱いて1時間を終えられるように役割演技や書く活動、語る活動などの指導方法を工夫します。

発問は、児童生徒の思考を促し、ねらいを達成するために各学習指導過程で目指す内容に応じて組むことが大切です。その際、ねらいを達成するために必要な道筋を付けていく一貫性のある問いかけを考えることが重要です。

本書では、学習指導過程において、欠くことのできない基本発問を○、本時の課題を追求する上で中核となる中心発問を◎で表記しました。また、ねらいとする道徳的価値についてより深く追求していくための「深めの発問」を中心発問の後に位置付けました。

「深めの発問」は、実際の授業では、その時の児童生徒の反応に応じて、発問の必要性の有無も含めて、問いかけ方が変わってくる可能性が大きいものです。しかし、児童生徒に道徳的価値をどこまで捉えさせたいのかを事前に明確にするためにも、この「深めの発問」を事前にいくつか考えることは非常に重要なことです。

指導・援助では、授業を進めるうえで留意することを具体的に述べ、ねらいとする道徳的価値に迫るよう配慮しました。

5 他の教育活動との関連

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うものであることに留意して、道徳の時間の指導と他の教育活動との関連について例示しました。道徳の時間と他の教育活動との関連図の作成に当たっては、以下の2点を基本的な構えとしてまとめました。

- ①道徳の時間を要として、その前後に児童生徒が主体的にかかわる教育活動を構想し、それらの一連の過程を指導計画に位置付けます。その際、道徳の時間がどのような教育活動との関わりの中で、補充・深化・統合を目指しているのかが分かるように示します。
- ②児童生徒の意識を想定して位置付け、児童生徒の意識を高めていくための指導・援助を具体化して示します。児童生徒の意識を高めていくために指導・援助が有効に働くことや、他の教育活動の指導・援助と効果的につながるよう工夫することが大切なポイントとなります。指導・援助について、他の教育活動のどの場でどのように指導するのかを具体的に示しました。